鹿児島県奄美パーク事業報告書2017 LEAF



目 次

第 1	l	鹿児島県奄美パーク概要1
第2	2	平成29年度の事業実績について2
第3	3	奄美の郷企画事業
1	1	季節感(年中行事)を取り入れたイベント3
		(1) 第11回奄美パークわらベシマ唄大会
		(2)あまみっ子フェスタ
		(3) ネリヤカナヤフェスタ
		(4) サマーコンサート
		(5) 奄美パーク夏まつり~シマジマ(喜界島・与論島)だより~
		(6) フユウンメコンサート
		(7)初春唄あしび
		(8) 奄美パーク新春寄席
		(9) 奄美パーク春まつり~サンガツサンチ~
2	2	奄美の郷ライブステージ12
		(1)あまみエフエム放送ディ!学 国立公園指定記念 奄美の自然と文化の魅力
		(2) 奄美パークキッズダンスフェスタ2017
		(3) しまうたミニライブ
		(4) 七色のこころ,あなたにとどけたい!!
		(5)奄美パークパフォーマンスバトル2018
3	3	文化講演会15
2	1	わきゃステージinパーク事業16
		(1)雪国長岡南国奄美交流茶会
		(2)第1回なつかしゃや・島唄!
		(3)しま唄あしびin奄美パーク
		(4)編衣と島のうた
		(5)第3回ならびや歌謡ショー
		(6) 昇三味線しま唄ライブ
		(7)アマービレ吹奏楽団スプリングコンサート
		(8) 第7回龍郷町キットハレ芸能祭
		(9)第10回キバリな祭~わんきゃが主役ど!!~
5	5	その他自主事業及び共催事業22
		(1)奄美パークハロウィンイベント
		(2)文化の日イベント
		(3)第11回奄美パーク子どもクリスマス会
		(4)第2回奄美パークバブルサッカー大会
		(5) けんむんクイズラリー

第4	田中一村記念美術館企画事業	27
1	奄美関連作家展及び招待作家展	27
	(1)渡辺晃一展~奄美の華跡~	
	(2)奄美につむぐ物語~吉田静佳イラスト&ベップリョウ写真展	
	(3)四本松庭懐古展	
	(4)Before and After: 自分探しの旅・そして奄美へ	
	(5)ビシキ×びしき×BiShiKi展 in 奄美	
	(6)PHOTO3人展「シマ・島・縞」	
	(7)木・布に遊ぶ 手仕事展	
	(8)書 凡夫三人展	
2	県美展奄美関連作家展	33
3	田中一村記念スケッチコンクール作品展	33
4	第16回奄美を描く美術展	34
	(1)本展	
	(2)巡回展	
	(3)入選・入賞作品	
5	その他企画展	39
	(1)龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展	
6	創作体験教室ほか	39
	(1)創作体験教室 楽しい絵画教室「奄美を描こう」	
	(2)夏休み子どもワークショップ 万華鏡をつくろう	
	(3)夏休み親子「織り体験」	
	(4)田中一村作品鑑賞会	
	(5)子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会	
	(6) 創作体験教室 人物画講座	
第5	各種イベント・美術館企画展ポスター等	44
第6	奄美パーク応援隊について	50

第1 鹿児島県奄美パーク概要

1 施設の目的

鹿児島県奄美パークは、奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホールや奄美シアター、人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点施設として、奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

- 2 設置者 鹿児島県
- **3 開園年月日** 平成13年9月30日
- 4 指定管理者 奄美群島広域事務組合
- 5 **園長兼館長** 宮崎 緑(千葉商科大学国際教養学部長、NHK「NC9」初の女性ニュース キャスター)
- 6 **園地面積** 約77,000㎡
- 7 総事業費 約78億円
- 8 施設の概要
 - (1) 奄美の郷(延べ床面積約3,200㎡)

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは、琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形。

- ○総合展示ホール、奄美シアター(有料)
- ○アイランドインフォメーション、イベント広場、レストラン、売店
- (2) 田中一村記念美術館(延べ床面積約2,490㎡)

奄美の海をイメージした池に3棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

- ○常設展示室、特別展示室(有料)
- ○企画展示室,ガイダンス室,図書資料室,喫茶・ミュージアムショップ
- (3) **一村の杜**(面積 7,000 m², 平成 19年 7月 20 日完成)

6つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美での作品に描かれている草木を 植栽。それぞれのスポットで作品に描かれている風景を鑑賞。

- (4) その他の施設
 - ○多目的広場(約3.780㎡)、野外ステージ、展望台、駐車場(約240台)
- 9 観覧料金 共通観覧料:一般620円(20人以上の団体は490円)

高・大学生410円(同320円)

小・中学生310円(同240円)

10 休 園 日 毎月第1, 第3水曜日(祝日の場合は翌日)

(4/29~5/5, 7/21~8/31, 12/30~1/3は開園)

- 11 開園時間 9:00~18:00(7月,8月は19:00まで)
- 12 入園者数 平成30年3月末現在 延べ2,245千人(平成29年度入館者数11万8千人)
- 13 組織図



第2 平成29年度の事業実績について

奄美パークは、世界的にも優れた奄美の自然や島唄・民俗芸能等の伝統文化、伝統産業など、奄美の魅力を国内外に情報発信する奄美群島全体の観光拠点施設として、平成13年9月に開園しました。奄美の美しい自然や多様な文化、歴史をビジュアルに紹介する「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家、田中一村の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とし、また、奄美群島に居住する方々の交流の場でもあります。「奄美の郷」では、総合展示ホールや奄美シアター、アイランドインフォメーションで奄美を紹介し、イベント広場において島唄、伝統芸能、踊りなどで構成するイベントを開催しています。「田中一村記念美術館」では、常設展示のほか、「企画展示室」において奄美関連作家展、招待作家展、奄美を描く美術展、創作体験教室などを開催しています。

平成29年度は、「奄美の郷」では日本人女子選手個人が持つメダル数ではデュエットパートナー・立花美哉とならび、歴代1位でもあるシンクロスイマー兼ピラティスインストラクターの武田美保さんをお迎えした文化講演会をはじめ、当園で初の開催となるハロウィンイベント、田中一村記念美術館では、小・中学生とその保護者を対象とした「子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会」の開催、毎年恒例となっている「奄美を描く美術展」及びその巡回展を伊仙町で開催するなど、様々なイベントを開催しました。また、2月には元ちとせさんのデビュー15周年を記念したライブが当園で開催されるなど、文化芸術の振興、施設の利用促進を図ることができました。

平成29年3月には国立公園指定、同じく3月下旬からの関西空港一奄美間のバニラエアの就航、平成30年のNHK大河ドラマ「西郷どん」の放映開始の効果などにより徐々に入館者数も増加し、平成25年度以降5年連続して前年度と比較しプラスとなりました。入館者数は、平成13年9月の開園以来、平成30年3月末で約224万人となりました。

このような中、奄美パークでは、平成30年度に主に奄美の郷アイランドインフォメーションの展示等のリニューアルを行うこととしており、奄美群島への追い風を逃すことなく、引き続き皆様の助言やお力添えをいただき、様々な事業を展開してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。



奄美の郷



田中一村記念美術館

第3 奄美の郷企画事業

1 季節感(年中行事)を取り入れたイベント

(1)第11回奄美パークわらベシマ唄大会

日時:平成29年5月5日(金・祝)9:30~15:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約400名

内容: 奄美の将来を担う子どもたちが、シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともにその技法を学び、シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催した。

参加者は小学校低学年の部に19名,小学校高学年の部に24名,中学生の部に13名の56名で,昨年に比べ2名増えた。

また、出場者の地域別としては、奄美市名瀬を中心に、奄美市笠利町、龍郷町、瀬戸内町、喜界町、東京都など多くの地域に及んだ。

来場者は本選出場者のシマ唄はもちろん, ゲストに招いた平成29年度各部門の優勝者3名(鈴木明さん・鈴木侑さん・飯田秋さん)他, 特別ゲストの朝岡明紀さん, 辻美里さん, 界眞子さんのシマ唄にも終始楽しんでいる様子だった。

各部門の各賞受賞者は下記のとおり

○小学校低学年部門

優勝 千田真帆 準優勝 濱地咲笑 3位 藤原梨月香 ○小学校高学年部門

優勝 朝岡歩紀花 準優勝 豊原柚子 3位 萩原かほ ○中学生部門

優勝 原田幸歩 準優勝 辻竜生 3位 且琴音







(2) あまみっ子フェスタ

日時:平成29年5月7日(日)10:30~15:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約350名

内容: ゴールデンウィーク期間中は、こどもの日を中心に 島内でもイベントが多く、行楽客が分散する傾向にあ ることや、島外からゲストを招くことが困難であるこ となどから、今年度もゴールデンウィーク最終日の日 曜日に設定し開催した。

今回は、1日を通して創作体験として奄美手熟師会がアダンの葉っぱを使ったおもちゃや、草笛体験やナ



リ細工などの手作り教室を行い、また、奄美市レクリエーション協会が屋外でバルーンアート、輪投げ等の 昔遊びなどを行い、それぞれに親子で楽しむ姿がみられた。

ステージでは、午前の部として節田小学校の5,6 年生によるアマンディー太鼓で始まり、最後は、大道 芸人クラウン・リオさんの会場を巻き込むパフォーマ ンスで会場を盛り上げ、楽しませた。

午後の部は、伊津部小学校のさざ波バンドによる躍動感あふれるダンスや、迫力のある三味線や太鼓の演奏で始まり、B→Matonds☆Dance Studio(ビーメイトンズ☆ダンススタジオ)やダンススクールCOREの素晴らしいダンスが行われ、最後には、午前の部でも登場した大道芸人クラウン・リオさんが、午前の部とは、ひと味違ったパフォーマンスを披露し、あまみっ子フェスタを締めくくった。

来場者のほとんどが親子連れで、ゴールデンウィーク最終日を親子で楽しめるイベントとなった。





(3) ネリヤカナヤフェスタ

開催期間:平成29年7月16日(日)~8月31日(木)

①オープニングイベント

日時:平成29年7月16日(日)13:30~16:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約450名

内容: 平成29年7月16日(日)から8月31日(木)までの期間で開催する「ネリヤカナヤフェスタ」のオープニングイベントとして、「ネリヤカナヤフェスタ~フラダンスパーティー~」を開催した。開催にあたり、参加するフラダンス教室や団体を公募し、今年は8団体・総勢約110名が集まった。会場には、フラガールたちの踊りを一目見ようと、フラダンスに興味のある方や出場団体のファンなど多くの観客が詰めかけ、ビデオを撮ったり、写真を撮ったりする姿がみられた。プログラムは全部で16番まであり、1つの団体が衣装チェンジをして2回出場するなど、見る者を楽しませた。

イベントのオープニングを飾ったのは、今年初出場 のカレイ・オ・ハウオリ・フラスタジオ奄美教室であった。「奄美が一番!」という気持ちを込めて踊った 曲は、その美しい姿で見る人々を魅了した。





イベントの中盤では、奄美市在住のピアニスト田中 裕太さんが、特別ゲストとして出場した。田中さんは、 ネリヤカナヤフェスタにちなんだ南の海をイメージ した曲を披露し、会場をネリヤカナヤの世界へと誘っ た。本来は、2曲で終了の予定であったが、会場の熱 気に当てられたのか3曲目「島育ち」も披露した。曲 が終了すると客席からは惜しみない拍手が送られた。

プログラム 1 4番に出場した Hauoli Ai Studioは、観客を楽しませようと「パティパティ」の曲に合わせた踊りを観客にレクチャーし、観客 と一緒になってダンスを踊った。客席では、楽しそう に踊る姿がみられた。

イベントの最後を飾ったのは、ロイヤルフラ仲山教室であった。「ワイカフリ」の曲に合わせて踊り、情景に合わせた優雅でしなやかなダンスは締めに相応しい最後となった。

出演者は以下の通り。カレイ・オ・ハウオリ・フラスタジオ奄美教室、アヌエヌエ喜界、ALOHA HULA AMAMI、Hauoli Ai Studio、フラ教室ち一子、ロイヤルフラ仲山教室、Hulaーみんご、リコフラダンス教室、田中裕太。





②展示関係

期間:平成29年7月16日(日)~8月31日(木)

場所:アイランドインフォメーション及び奄美シアター付近

期間中の入場者数:9,757名

内容: 奄美の海の魅力を再認識してもらうため、平成29年7月16日~8月31日の期間に「ネリヤカナヤフェスタ」を開催した。内容は、海に関する写真展や海洋生物の骨格標本及び海中のミステリーサークルの模型の展示であった。

アイランドインフォメーションでは,「魅惑のサンゴ礁〜命育む海の森〜」と題して写真展を行った。写真の提供は,奄美で日々サンゴ礁保全やウミガメ類の繁殖生態,鯨類に関する調査研究に取り組んでいる興克樹氏であった。

写真展は、63点もの写真をアイランドインフォメーション一面に展示し、サンゴの産卵や鯨及びウミガメの遊泳、海洋生物の就寝の様子などボリュームのある内容であった。また、写真は基本A3サイズであっ





たが、興氏のお勧めの写真はBOサイズに拡大印刷し、 来場者に迫力ある海洋生物の様子を伝えることがで きた。4来場者は興味深そうに写真展を鑑賞しており、 幅広い年齢層の方が写真展を楽しんでいた。

シアター付近には、興克樹氏が提供した「奄美大島に漂着した小型鯨類やウミガメ類の骨格標本」と星空プロジェクトより提供のあった「海中のミステリーサークル」の模型を展示した。骨格標本は、アオウミガメ、オガワコマッコウ、タイマイを展示した。骨格標本を見た来場者は、スゴイ!などと感想を言いながら家族で楽しげに見ている様子が印象的であった。

海中のミステリーサークルの模型は、アマミホシゾラフグの普及活動に努めている「星空プロジェクト」より提供された。来場者は、実際の1/2の大きさで精巧に作られたミステリーサークルを感心しながら見ていた。

夏休み期間中に開催したことで、観光客や地元の 人々に奄美の海の魅力を再認識して貰えるイベント となった。





③夏休み親子手作り教室~オリジナル時計を作ろう~

日時:平成29年8月19日(土)10:00~11:30

場所:レクチャールーム 参加者数:32名

内容: ネリヤカナヤフェスタの一環で「夏休み親子手作り 教室」を開催した。

内容は、ネリヤカナヤフェスタにちなんで、貝殻やシーグラスを使った「オリジナル時計」の作成であった。定員20名の参加募集を行い、10組32名の親子が集まった。早期に定員に達したため、お断りするご家族もあった。

当日は、パーク職員が講師を務め、オリジナル時計の作り方を冒頭で説明し、各々作業に取り掛かる形であった。材料は、フォトフレーム、時計、ボンド、お気に入りの写真やイラスト、貝殻やシーグラスを使用した。フォトフレームや時計は100円ショップなどで購入し、参加者が家庭でも再度作れるような物を用意した。また、お気に入りの写真もしくはイラストが無い方は、当日自分で描いたイラストを時計の文字盤にすることによって、世界で一つだけのオリジナリティあふれた時計を作成することが出来た。





参加者は、親子で協力しながら一所懸命作業に取り組み、オリジナル時計を作成していた。材料や作り方が分かった参加者からは、「家でも作ってみよう」とうれしそうに会話する姿が見られ、参加者にとって楽しい夏休みの1ページとなった。

④自然写真家 興克樹講演会「海から眺めた奄美大島~ さんご・うみがめ・くじらのお話~」

日時:平成29年8月27日(日)14:30~15:30

場所:レクチャールーム 入場者数:34名

内容: ネリヤカナヤフェスタの開催期間中に奄美の海の魅力をより深く知ってもらうため、自然写真家の興克樹氏による講演会を行った。同氏は、フェスタ開催期間中の写真展「魅惑のサンゴ礁〜命育む海の森〜」に写真を提供しており、講演会では「海から眺めた奄美大島〜さんご・うみがめ・くじらのお話〜」と題して写真展に展示しているサンゴ・ウミガメ・鯨の生態系について子どもにも分かりやすく解説をした。

講演会の前半30分間では、サンゴの生態系や現状の問題に関することについて触れ、後半20分間ではウミガメの生態系や観測調査結果について話し、最後の10分間で鯨の出現数や個体数・生態系について資料などを交えながら解説をした。来場者は興氏の話に熱心に耳を傾けており、驚いたり感心したりする様子やメモを取ったりする様子などがみられた。

最後に、講演会に関する質問の時間を設けると、多くの来場者から積極的に手が挙がった。鯨の出現する期間はいつなのかといった質問や、サンゴが産卵した後の海水の匂いとはどんな匂いなのかなどといった質問が上がり、興氏が質問に対して答えると会場からは驚きや感嘆の声が上がった。





(4) サマーコンサート

日時:平成29年8月12日(土)13:30~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約100名

内容: 今年度開催したサマーコンサートは,8月6日(日) に開催予定であったが,台風5号の接近により8月1 2日(土)に延期して開催した。

今回は, 楠田哲さんが代表を務めるチームベルカントスによる, 島村智才 feat望月信悟, Chie,



ずぶ濡れブラザーズの3組のアーティストが出場し、 コンサートを盛り上げた。

今回のコンサートは、奄美在住のアーティストによる夏を感じる曲をコンセプトに行われ、ステージでピアノの弾き語りやギター演奏を交えて歌うアーティストが来場者を魅了した。

島村智才さんは、島人には馴染みのある「行きゅんにゃ加那」をサマーコンサートバージョン風にアレンジし、普段とは一風変わった島唄を披露した。

Chieさんは、パワフルなピアノの弾き語りと、 心癒される透明感のある歌声を披露した。

最後は来場者を舞台上へ招き、出演者と一緒に「上を向いて歩こう」を合唱するなど、さらに素敵な空間 を演出し、来場者と出演者が共に楽しむ姿が見られた。





(5) 奄美パーク夏まつり~シマジマ(喜界島・与論島) だより~

日時:平成29年8月20日(日)13:30~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約240名

内容: 平成26年度より本島外から出演を依頼している本 イベント。今年は、喜界島及び与論島から計5団体が ステージを披露した。

まず喜界島の荒木民俗芸能保存会が八月踊りを踊りながら登場。また、作業唄である「イトゥ」では小道具を用いて演じ歌った。続けて遠藤浩文さんと飛鳥さんのご夫婦は「茶わん虫」、「奄美大島の子もり唄」など、島ならではの楽曲をピアノや管楽器、オカリナなどを使って演奏。安田民謡教室からは「朝花節」や「塩道長浜節」の他、最後の「六調」では荒木民俗芸能保存会や会場の観客が一体となって踊る場面もあり、大いに賑わいをみせた。

続けて与論島からはHo'opono yunnu Alohaや森 真奈美さんがフラダンスを披露。ダンスの合間には与論島の紹介ムービーも上映。中孝介氏のヒット曲「花」の一部の振付を来場者に教えて一緒に踊ってもらうなどの一幕もあった。イベントの最後は与論島で作られた曲「月酔唄」で締めくくった。

参加団体の「Ho'opono yunnu Aloha」の代表青山さんからは、「与論島以外の場所で踊るのは初めて。楽しかった。」とのお声もいただいた。





(6) フユウンメコンサート

日時:平成29年12月3日(日)13:30~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約350名

内容: 冬の折り目という意味で作物の収穫に感謝する「フ ユウンメ」の時期に合わせて、ダンスや島唄、太鼓演 奏などで構成した毎年恒例のイベントを開催した。

今回は、数年ぶりに復活した大島北高校北大島太鼓部による太鼓演奏で開演し、大島北高校ダンス同好会によるK―POPダンスの披露、B→Matonds
☆Dance Studioのヒップホップダンス、朝岡明紀さん、千田真帆さん、中尾聖子さん&松元良作さんの島唄、Hulaーみんごの皆さんによるフラダンスなど盛りだくさんの内容となった。また、11月26日に開催された「民謡民部奄美連合大会」で総合優勝を果たした楠田莉子さんは同大会で唄った「今ぬ風雲節」をはじめ、島唄・ポップスを披露した。

サンタクロースの衣装でのダンスなど、プログラム の随所にクリスマスを想像させてくれる演出も見られ、冬の折り目のイベントに相応しい内容となった。





(7)初春唄あしび

日時:平成30年1月3日(水)13:30~15:20

場所:屋内イベント広場 入場者数:約270名 内容: 新年恒例の「初春唄あしび」を開催した。

山ゆり会の村山さんと朝さん司会のもと, しま唄, 日本舞踊, 歌謡曲の多彩な構成で, 来場者を楽しませた。

オープニングは、山ゆり会唄者全員による「朝花節」 でイベントが開演。次に、最年少の小学2年生の朝そ らさんを始めとする経験豊富な唄者達がのびやかな 歌声を披露し、来場者を魅了した。

日本舞踊の藤扇流の皆さんは、歌謡曲「ルリカケス」 の曲に合わせ、曲のタイトルどおりルリカケスをイメ ージした踊りを披露した。

また、歌謡ショーでは、久志哲美さんが「東シナ海」、「男の花道」を披露し、来場者と一緒に盛り上がった。 後半も引き続きしま唄が披露され、イベントの最後は、出演者全員による八月踊り「さんだまけまけ」と 「赤木名観音堂」、六調を踊り、来場者も参加する姿

が見られ盛大な締めくくりとなった。





(8)奄美パーク新春寄席

1 奄美パーク公演

日時:平成30年1月6日(土)14:00~16:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約300名

内容: 毎年恒例となった奄美パークの新春寄席を1月6日

(土)屋内イベント広場にて開催した。今年の出演者は、7年連続出演となる三遊亭鬼丸さん(真打)を始め、柳家圭花さん(二つ目)、のだゆきさん(音楽パフォーマンス)の3名で行った。

来場者の中には毎年行われる寄席を楽しみにしている方も多くおり、最初は圭花さんがまくらで場を温めながら、その後の落語「初天神」を披露した。続いて、三遊亭鬼丸さんが登場し、落語「禁酒番屋」を披露すると会場は大きな笑いにつつまれた。中入り後は、音楽パフォーマンスののだゆきさんが登場。鍵盤ハーモニカや大きさの異なる複数のリコーダーを用い、身近な生活音から誰もが一度は聴いたことのある楽曲など、多彩な音を奏で会場を沸かせた。最後は再度登場した三遊亭鬼丸さんが落語「抜け雀」を披露し、トリを飾った。

演目終了後には、三遊亭鬼丸さんの手ぬぐいや扇子 をプレゼントする抽選会を開催した。





②徳之島公演

日時:平成30年1月7日(日)13:30~15:30

場所:天城町防災センター 入場者数:約200名

内容: 昨年より奄美群島各離島でも開催することとなった 奄美パーク出張新春寄席を,今年は徳之島の天城町防 災センターにて開催した。今年の出演者は,奄美パー クでは7年連続出演となる三遊亭鬼丸さん(真打)を 始め,柳家圭花さん(二つ目),のだゆきさん(音楽 パフォーマンス)の3名で行った。

来場者は、慣れない落語に始めは肩に力が入っていたが、主花さんがまくらで緊張をほぐすと、その後の落語「狸の鯉」で多くの笑いを誘った。続いて、三遊亭鬼丸さんが登場し、落語「目薬」「紙入れ」を披露すると、会場は笑いにつつまれた。

中入り後は、音楽パフォーマンスの のだゆきさん が登場。鍵盤ハーモニカやリコーダーなどによる多様 な手法での演奏に会場は一体となり、最後に再度登場





した三遊亭鬼丸さんが落語「ちりとてちん」を披露し、 徳之島の人たちに落語の笑いを届けた。

演目終了後には、三遊亭鬼丸さんの手ぬぐいや扇子 をプレゼントする抽選会を開催した。

来場者からは「天城町での寄席は滅多にない為,貴 重な機会。とても面白かった。」などの声があり、新 春らしいイベントとなった。



(9) 奄美パーク春まつり~サンガツサンチ~

日時:平成30年3月4日(日) バザー 11:00~15:30

ステージ 13:30~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約370名

内容: 旧暦のサンガツサンチの桃の節句にちなんでイベントを開催した。シマ唄とダンスを女性ならではの雰囲気で唄い、そして踊り、華やかさを演出し来場者を魅了した。

イベント冒頭では、アマンディー太鼓による力強い 太鼓演奏が響き渡り、大きな拍手で幕を開けた。

アクアクラブは、奄美で唯一のキッズチアダンスで、 未就学児のダンスに会場からは「可愛い」という声や 拍手が起こった。

奄美☆舞創喜には2回出演していただいた。ダンス を通して奄美の伝統や歴史、文化を学び伝えていきた いという思いで練習をしてきた子どもたちのダンス で来場者の注目を集めた。

3名の唄者がシマ唄を披露し、「長雲節」や「イトゥー」、「今ぬ風雲節」、「大島紬ぬうりぎょらさ」、「野茶坊」、「請くま慢女」などを唄い会場を魅了した。

後半のダンスでは、ティダスポーツクラブから新体操の子どもたちが出演し、リボンを使った演技や、山下先生によるアクロバティックなパフォーマンスで会場を沸かせた。

奄美高等学校吹奏楽部は、打楽器や管楽器を使用し、 イベント広場に素晴らしい音色を響かせた。

「ひなまつりバザー」では、味の郷かさりさんと夢来夢来さんが飲食ブースを設け、奄美特産の加工品や手作りパンを販売した。物販ブースでは、奄美在住のハンドメイド作家による出店もあり、来場者はステージとともに飲食、物販のバザーも楽しんでいた。









2 奄美の郷ライブステージ

(1) あまみエフエム放送ディ!学 国立公園指定記念 奄美の自然と文化の魅力

日時:平成29年5月28日(日)13:30~16:15

場所:屋内イベント広場 入場者数:約250名

内容: 地元のコミュニティラジオ局と協同し, 奄美群島国立公園指定を記念したイベント「あまみエフエム放送ディ!学 国立公園指定記念 奄美の自然と文化の魅力」を開催した。

大島北高校吹奏楽部及び同高校合唱部による島唄「ヨイスラ節」で開幕。三味線と金管楽器・弦楽器そして透き通った歌声のハーモニーが会場を包み込み、華やかなスタートとなった。同高校の吹奏楽部と合唱部のコラボレーションは初の試みであったが、賑やかなステージに会場は一気に盛り上がった。

続いては、国立公園指定を通して奄美の自然保護や 文化継承について意見を交わすパネルディスカッションを行った。進行は、あまみエフエムのパーソナリティー渡陽子さんが務めた。その他の参加者は、地元の大島北高校の生徒2名、環境省奄美野生生物保護センターの自然保護官2名、地元で有名なアーティスト・サーモン&ガーリック3名、そしてあまみエフエム代表理事の麓憲吾さんであった。環境省の自然保護官は、奄美の貴重な自然が維持されてきた背景として、「地域の人々がバランスを取りながら自然と向き合ってきた結果」と分析。また、「自然が維持されてきた背景には、ハブやケンムンを住民が恐れ、森に近づかなかったことも関係しているのでは」などの意見も挙げられた。

イベントの最後は、地元で活動している有名なアーティストたちによる奄美の自然や地元愛を歌ったライブステージが行われた。ライブステージは、民謡民舞少年少女全国大会で優勝経験のある楠田莉子さんの島唄から始まり、続いて森拓斗さんのエネルギーあふれるオリジナル曲の披露、そして最後はサーモン&ガーリックwithアニョによる方言のオリジナル曲が披露された。会場では、アーティストの曲に合わせて手拍子をする様子がみられるなど、賑やかなステージとなった。









(2) 奄美パークキッズダンスフェスタ2017

日時:平成29年6月25日(日)13:30~14:15

場所:屋内イベント広場 入場者数:約280名

内容: 応募のあった4組(Hula-みんご,フラワー,

B→Matonds ☆ Dance Studio, 大 島北高校ダンス同好会) の子どもたちのダンスを披露 する「奄美パークキッズダンスフェスタ 2 0 1 7 」を 開催した。

出演者は、未就学児から小学生、中学生、高校生が 主体で保護者やダンス教室の先生も出演し、約75名 が参加した。

今回から高校生まで出場対象を広げたところ,大島 北高校ダンス同好会が初参加となった。

プログラムは、「フラワー」によるフラダンスから始まり、ヒップホップダンスなど多彩なダンスが繰り広げられ、会場からも手拍子が起きるなどステージと会場が一体となり盛り上がった。

出演者からは「学校以外で踊る機会は初めて。練習 の成果を出して、舞台では楽しむことができた。」な どの感想を得た。





(3) しまうたミニライブ

日時: 平成29年7月30日(日), 8月13日(日), 8月27日(日)

いずれも13:30~14:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約190名

内容: 夏休みは島内外の家族連れや観光客でにぎわうこと から、より多くの方に奄美の文化に触れていただける よう「しまうたミニライブ」を開催した。開催時間は、 関東や関西の航空便の離発着時間に合せて設定をした。

イベントには、奄美しま唄グループゆらゆいの代表を務める和田孝之さんの呼びかけで、同グループメンバーの別府まりかさん、岩元理恵さんや昇島唄三味線教室のメンバーが出演した。全日程の司会は和田孝之さんが務め、島外からのお客様にも分かるように奄美・沖縄の島唄や三味線の違い、唄や歌詞に込められた意味を説明した。客席では和田さんの説明を聞いて、うなずいたり感心したりする姿がみられた。

ライブの最後にワイド節や六調の曲が披露される と、客席では恥ずかしそうにしながら楽しげに踊る姿





がみられ、賑やかな締めとなった。

大規模なイベントのない7・8月の日曜日に「しまうたミニライブ」を開催したことで、夏休みの日曜日は奄美パークで毎回イベントを開催しているというイメージ付となり、集客数の向上を図ることができた。

(4)七色のこころ、あなたにとどけたい!!

日時:平成29年9月10日(日)13:30~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約190名

内容: 歌謡曲を中心とした「七色のこころ,あなたにとどけたい!!」を開催した。当日は,奄美群島各地で様々なイベントや行事が開催されたが,毎年楽しみにしているリピーター等,多数の来場者が訪れた。イベントでは,奄美芸能七色会と仲間たち総勢16名の出演者が,それぞれ島唄や歌謡曲,踊りを披露し会場を盛り上げた。また,来場者も,出演者の歌に合わせて歌ったり手拍子をしたりと,一緒になって会場を盛り上げてくれた。

プログラムの内容は、島唄や歌謡曲、日舞に琉舞、マジック等で構成されており、子どもから年配の方まで楽しめる盛りだくさんの内容であった。

最後は、「六調」に合わせて、出演者と来場者が一 緒に踊り、盛大にイベントを締めくくってくれた。





(5) 奄美パークパフォーマンスバトル2018

日時:平成30年2月11日(日)13:30~16:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約400名

内容: パフォーマーの皆様が日頃の練習の成果を発表する場として、また幅広い年代の方々にパフォーマンスを楽しんでいただくことを目的として、毎年恒例の「奄美パークパフォーマンスバトル2018」を開催した。島内外問わず様々なジャンルのパフォーマーを公募し、今年は14団体・約100名が優勝・準優勝を争った。優勝・準優勝は、得票数により決定。投票方法は各出場者が3票を持ち、自身以外の出場者に相互投票をする形式であった。

出場者のジャンルは、体操や詩吟、ハーモニカ演奏、 傘まわし、フラダンス、民族舞踊と多種多様で、会場 は様々なジャンルのステージを楽しんでおり、時折出 場者のダンスに合わせて手拍子をするなどバトルを



後押しした。

投票の結果、優勝を手にしたのは初出場の「奄美☆舞創喜」であった。「奄美☆舞創喜」は、島の宝である子どもたちに踊りを通して、島の歴史、自然、文化を感じて表現することをコンセプトに活動しており、今回は「島の時」というテーマで奄美に生きる喜びを体いっぱい表現した。子どもたちの迫力ある演技に会場からは、何度も拍手が沸き起こった。

その他,準優勝を獲得したのは「大島北高校ダンス同好会」,特別賞を獲得したのは大道芸人の「クラウン・レオ」であった。両出演者ともに初出場であったが,会場を沸かせる素晴らしいステージを披露し,見事賞を勝ち取った。なお,特別賞に関しては奄美パークによる審査で決定した。

また、今回特別ゲストとして昨年度のパフォーマンスバトルで優勝した西原ゆなさんがステージに花を添えた。西原さんは妹と一緒に出演し、その優雅で華麗なフラダンスは会場を虜にした。

イベントの最後は、出演者全員で記念撮影を行い、 楽しく賑やかな締めとなった。

その他の出場者(ジャンル)は、里真(楽器演奏)、 Hulaーみんご(ダンス)、森田佐喜雄(楽器演奏)、 リコフラダンス(ダンス)、大島北高校太鼓部(太鼓)、 奄美フォークダンスクラブ(ダンス)、ACADEM IADE MARINERA PIMENTEL(ダンス)、Seiーchan(体操)、修武台奄美吟詠会 (詩吟)、IOB(ダンス)、ONCE(ダンス)。







3 文化講演会

「夢を追いかけて」

日時:平成29年12月10日(日)13:00~14:35

場所:屋内イベント広場 入場者数:約70名

内容: 元シンクロナイズドスイミング日本代表の武田美保 さんを講師にお迎えし奄美パーク文化講演会を開催 した。

「夢を追いかけて」と題して行われた講演では、7歳から始まった21年間の競技人生を振り返り、自身の夢や目標をどのようにして実現してきたかなどを語り、諦めずに挑戦し続けることの大切さを訴えた。



また、井村コーチの厳しく激しい練習や同コーチからの言葉で号泣したことアテネオリンピック後に同コーチから初めて褒められたことなどをユーモアも交えながら紹介し、「人間やり方次第。自分次第なんだと最後に分かった。」などと呼びかけた。

講演の最後には、「私もこれから何かにチャレンジ したくなりました。」という司会の丸田さんのコメン トに対し、客席ではうなずく姿も見られた。

4 わきゃステージinパーク事業

(1)雪国長岡南国奄美交流茶会(主催:あやまる会,表千家われもこう)

日時:平成29年5月4日(木・祝)

お茶会 9:00~15:00

ステージ 13:30~15:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約600名

内容: 新潟県長岡市の茶道グループ「表千家われもこう」 と奄美の島唄グループ「あやまる会」主催による「雪 国長岡南国奄美交流茶会」を開催した。2グループ の交流は約8年前から行われ、今回の交流茶会は初 めての実施であった。

> 表千家われもこうによるお茶の振る舞いは、当初 10時から行われる予定であったが、9時の開園と 同時にお客様が訪れ、その後途切れることなく15 時まで大盛況であった。

> われもこうの会員20名は、それぞれ自前の大島 紬を着用しており、観光客や地元の住民などに大島 紬のPRをすることが出来た。

> 13時からは、同時開催であやまる会及び須野集落の八月踊り保存会による島唄や八月踊りが披露された。客席では島唄を聴きながら、われもこうにより振る舞われたお茶やお菓子を楽しみ優雅なひと時を過ごしていた。

ステージの最後に、六調の音楽が鳴り出すと客席 やわれもこうメンバーが輪になって踊り出し、賑や かな締めとなった。







(2) 第1回なつかしゃや・島唄! (主催:(公財) 日本民謡協会奄美連合会北大島支部)

日時:平成29年6月4日(日)13:30~15:45

場所:屋内イベント広場 入場者数:約250名

内容: 公益財団法人日本民謡協会奄美連合会北大島支部 主催による「なつかしゃや・島唄!」を開催した。

奄美シマ唄日本一大会で最優秀賞を受賞した福山幸司さんの歌声を皮切りに、大人から子供まで、賛助出演のフラダンス・ロイヤルフラ仲山教室も含めると、総勢約40名による島唄やフラダンスのステージで会場を魅了した。

偶然にも外国の方々がツアーで来館されており、 ステージを嬉しそうに眺め、写真を撮ったり、リズムを取るような姿が見られたりした。

最後はワイド節で会場を更に盛り上げ、島のブルース・六調で出演者と来場者が一緒に踊り、中には 指笛を鳴らす方も見られ、素晴らしいステージとなった。

主催者側の平久美さんからは、「今回を第1回として、2回・3回と続けていきたい」と、嬉しいお言葉もいただいた。





(3) しま唄あしび i n 奄美パーク (主催: あやまる会, 鹿児島県教職員共助会)

日時:平成29年7月23日(日)13:30~15:45

場所:屋内イベント広場 入場者数:約150名

内容: 「あやまる会・鹿児島県教職員共助会」主催の「しま唄あしびin奄美パーク」が開催された。

毎夏恒例の当イベントは、島唄を中心に、島口、新体操など多彩なプログラムで構成され来場者を魅了した。

特に島唄の部では、過去のわらベシマ唄大会や、他 の島唄大会での入賞者の子ども達も多数出場し、来場 者も聞き入っていた。

他にも、ASA大島ジュニア新体操クラブの女の子達による地元の島唄に合わせた華麗な新体操や、 薗博明さんによる島口で語った小話などがイベントを彩ってくれた。

終始楽しい雰囲気の中、最後は出演者と来場者が一体となって島のブルースや六調を踊り、イベントを締めくくってくれた。





(4)編衣と島のうた(主催:エイ子の編衣)

日時:平成29年9月16日(土) 13:30~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約130名

内容: エイ子の編衣(あんぎん)主催による「編衣(あんぎん)と島のうた」を開催した。今回初となるこのイベントは、服飾作家として活躍している森エイ子さんと龍郷町在住の唄者平久美さんが、手芸の趣味を通じて知り合い、念願が叶って実現したイベントであった。イベントの開幕は、平久美さんと福山幸司さんによる祝い唄、長朝花節であった。

続いて、森エイ子さんが手がけた作品、「編衣(あんぎん)」約20点を紹介するファッションショーを開催した。「編衣(あんぎん)」とは、大島紬の糸をより合わせて手編みで作成した衣服のことで、ファッションショーでは、奄美の海・鳥・ソテツ・花・泥のイメージの作品たちを披露した。それぞれの作品には、「鳥」ではアカショウビン、ルリカケス、花では極楽鳥花などを披露し、奄美の色鮮やかな自然や動植物を色合いやグラデーション、編み方を変えて表現していた。奄美愛あふれる作品たちに、会場は熱心にカメラを向けたり、拍手をしたりする姿が見られた。

続いては、地元バンド「オオクィクィS29」が出演した。活力あふれる演奏に会場は熱気に包まれた。中盤では、ファッションショーのメンバーが曲に合わせて踊る姿などがみられ、賑やかなステージとなった。イベントの最後では、平久美さんと福山幸司さんによる紬恋唄、島のブルース、六調が披露され、曲が始まるとファッションショーで出演したモデルたちが一斉に舞台の上に集まり、楽しそうに踊る場面などがみられ賑やかな締めとなった。







(5)第3回ならびや歌謡ショー(主催:ならびや歌謡グループ)

日時:平成29年9月24日(日)13:00~14:50

場所:屋内イベント広場 入場者数:約60名

内容: ならびや歌謡グループ主催による「ならびや歌謡ショー」を開催した。イベントの出演者は、奄美歌謡選手権大会で受賞された方やCDアルバムを制作,販売している方など,歌唱力のある方たちばかりが集まった。

司会は、ならびや歌謡グループ代表の和田孝之さん



が務めた。

イベントの開幕は、和田孝之さんと作まゆみさんに よるデュエット曲で「瀬戸の連絡船」が披露された。

プログラム全23曲が披露され、ボリュームのある 内容であった。時折、踊りも披露され、その歌に合わ せた優雅な踊りは会場を魅了した。観客の中には、出 演者のファンの姿も見られ、出演者が歌う曲がかかる と声援を送る様子がみられた。

イベントの終盤では、出演者のほぼ全員がステージ に上がり島のブルースを歌った。また、会場では島の ブルースの曲に合わせて一緒に踊る姿がみられ、賑や かな締めとなった。

出演者は以下のとおり。和田孝之,作まゆみ,平美穂,ベッチェいけもと,久志哲美,山元俊治,岩田幸喜,仙田流 仙田駒由起。





(6) 昇三味線しま唄ライブ (主催:昇島唄三味線教室)

日時:平成29年11月19日(日)13:00~15:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約220名

内容: 「昇島唄三味線教室」主催による「昇三味線しま唄 ライブ」を開催した。プログラムは全部で26組あり、 観客を飽きさせないよう島唄、踊り、新民謡の3部構 成で行った。司会は、地元で観光客の方に島唄の解説 をしている和田孝之さんが務めた。

> 開幕は、昇島唄三味線教室出演者全員による「行き ゆんにゃ加那節」で、子どもたちの元気な歌声が会場 に響き渡り、賑やかな幕開けだった。

> 昇島唄三味線教室の生徒の中には、初めて舞台に立つ子も多く緊張した面持ちで参加している姿が印象的であった。客席には、そんな我が子の姿を一目見ようと多くの保護者や親戚などが詰めかけた。

第2部の新民謡及び踊りでは、時折トークなどを交えながら、平美穂さんや和田孝之さんが新民謡披露し、肥後和子さんが楽しい琉球舞踊、藤美鈴紫音さんが美しい日本舞踊で観客を虜にした。

最後は、昇島唄三味線教室出演者全員による六調で 締められ、出演者や会場の観客が一緒になって踊り、 賑やかで楽しい幕引きとなった。





(7)アマービレ吹奏楽団スプリングコンサート(主催:アマービレ吹奏楽団)

日時: 平成30年2月17日(土) 14:00~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約120名

内容: 地元で活動している吹奏楽団「アマービレ吹奏楽団」 主催による「アマービレ吹奏楽団スプリングコンサート」を開催した。

ステージは、爽やかな曲「南風のマーチ」で開幕した。団員の川井さんによる曲の解説などを交えながら、全13曲披露した。

演奏する曲によって楽器が異なり、全員で演奏する 迫力ある曲や、アルトサックスソロ演奏の曲、クラリ ネット四重奏、バリチューバ三重奏、金管楽器六重奏 などバラエティに富んだ内容であった。

また,選曲も幅広い年代に対応した認知度が高い曲が多く,会場の子どもやお年寄り親子連れなどが,曲に合わせて手拍子をしたり,体を揺らしたりする場面などが見られた。

締めの「島のブルース」では、会場が耳を澄ませて 曲を聴く姿なども見られ始終和やかな雰囲気であっ た。





(8) 第7回龍郷町キットハレ芸能祭(主催:龍郷町懐メロ同好会)

日時:平成30年3月11日(日)13:00~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約470名

内容: 「龍郷町懐メロ同好会」主催の「第7回 龍郷町キットハレ芸能祭」が開催され、3部構成全34曲の楽曲を演奏披露した。

第一部では、主に昭和の名曲を中心として、生バン ド演奏をバックに、龍郷町だけでなく宇検村や瀬戸内 町からも出演者が参加し、それぞれ自慢の喉を披露し た。演奏曲のほとんどが昭和30年代の楽曲というこ ともあり、御年配の方が多く来園されていた。

イベント中、客席では音楽にあわせて体を揺らしたり、手拍子をとる姿も見られた。また、観客から出演者へ声援が送られたり、花束を手渡したりする一幕もあった。

第二部では、友情出演として紫乃華舞舞踊教室の日舞とフラカオスタジオのフラダンスが披露され、それぞれの華やかな踊りに観客はまた異なる空気を楽しんでいる様子だった。





第三部では第一部に引き続き龍郷町懐メロ同好会による唄の披露があり、唄は勿論、個性的な衣装や語りなども盛り込まれ、最後まで観客を飽きさせることのない充実したステージとなった。

(9)第10回キバリな祭~わんきゃが主役ど!!~(主催:奄美市笠利町青年団)

日時:平成30年3月18日(日)13:00~15:00

場所:屋内イベント広場 入場者数:約200名

内容: 奄美市笠利町青年団主催による「第10回キバりな祭」を開催した。この春,卒業していく学生の方や島を離れる方々に思い出作りとして,また島の魅力を伝えることを目的として開催した。

開幕は、林未樹さんと濱地龍之介さん2人による元気な司会でスタート。二人の息のピッタリ合った司会に会場もステージの世界へと誘われた。

最初のトップバッターを務めたのは、大島北高校太 鼓部による太鼓演奏であった。オリジナル曲「疾走」 を披露し、迫力ある演奏に会場は釘づけになっていた。

中盤は、サプライズゲストとしてイカリングはやと さんが出場。その独特の漫談に会場からの笑いが絶え なかった。

最後は、出演者及び青年団全員による六調で締め括られた。ステージやイベント広場全体で、団員や出演者たちが元気よく踊り、賑やかで楽しい幕引きとなった。

出演者は以下のとおり。大島北高校太鼓部、オークィクィ、イカリングはやと、ワンジー、節田体操クラブ、Mori-hiro-mei-,大笠利わらべ島唄クラブ、笠利町青年団。







5 その他自主事業及び共催事業

(1) 奄美パークハロウィンイベント

日時:平成29年10月29日(日)

・宝さがし終日

・ワークショップ 13:30~15:10

・フォトブースで写真撮影 13:30~16:00

場所:奄美の郷 参加者数:約500名

内容: 近年, ハロウィンイベントやパーティなどが各地で実施されブームとなっていることから, そのブームにあやかり奄美パークで初めての開催となる「奄美パークハロウィンイベント」を実施した。

ハロウィンイベントにちなんで、仮装をして「トリック・オア・トリート」のキーワードを言った来園者にお菓子をプレゼントした。当日は、仮装をした方が多く来園し、元気よくキーワードを言い、嬉しそうにお菓子を受け取る姿が見られた。

終日開催していた「宝さがし」イベントは、奄美の 郷無料ゾーン内に散りばめられた9つのキーワード 用紙を見つけ、所定の回答用紙にそのキーワードを記 入し提出すると、プレゼントを受け取ることができる という内容であった。参加者がキーワードを真剣な様 子で探したり、キーワードを発見し嬉しそうに回答用 紙に記入したりする姿がみられた。正解した参加者は、 満足気にプレゼントを受け取っていた。

13時30分からは、「フォトブースで記念撮影」及び「ワークショップ魔女の魔法のホウキネックレス」を開催した。フォトブースでは、仮装姿を思い出に残そうと多くの親子が詰めかけた。印刷した写真をプレゼントすると、友達と笑顔で写真を見る姿が印象的であった。

藤井菊美さんが講師を務めるワークショップでは、ススキの穂と木の枝、そして毛糸を使った「魔女の魔法のホウキネックレス」の制作を行った。開始時間前から、多くの参加者が詰めかけ、始終親子連れでにぎわっていた。また、予想を超える参加者が集まったため、用意していた材料が途中で無くなり、当初予定していた終了時刻より前に参加者を締め切った。

園内は、終日仮装をした来園者や宝さがしの参加者 などでにぎわい、ハロウィンイベントに相応しいにぎ やかな1日となった。







(2) 文化の日イベント

日時:平成29年11月3日(金・祝)

①昔あそび体験会 午前の部:10:00~12:00

午後の部:13:30~15:30

②ケンムンクイズラリー 終日

場所:①屋内イベント広場 ②奄美の郷

参加者数:①約300名 ②約20名

内容: 文化の日は有料施設の観覧料を無料としており、この機会に奄美パークをより身近に感じていただくことを目的に文化の日イベントを開催した。

園内は、この日に合せて有料ゾーンを観覧する方や、 様々なプログラムを体験しようとする方など多くの 人で賑わった。

屋内イベント広場では、「昔あそび体験会」を午前 の部・午後の部と2部構成で開催した。体験会は、全 部で9つのプログラムを体験することができた。

プログラムの内容は、蘇鉄の葉を使った「一輪挿し」、 アダンの葉を使った「手裏剣」及び「コースター」、 「竹トンボ」、そして竹とバランで作った「笛」、「ナリ細工」、「神の目」、「紙飛行機」、「ゴム鉄砲」であった。参加者は、各々一生懸命作業に取り組んでおり、 すべてのプログラムに参加する方や1つの作品に打ち込む方など様々であった。講師はパーク職員と地元で地域の子どもたちに手熟を披露している奄美手熟師会の方々が務めた。大人と子どもが一緒に楽しめる内容となっており、幅広い年齢層の方が時間いっぱい物作りを楽しんだ。

また、奄美の歴史・自然・文化に興味を持ってもらうために通年開催している「ケンムンクイズラリー」も、この日は有料ゾーンへ無料で入れることから、より多くの子ども達がクイズに挑戦していた。

文化の日の無料開放に併せて、奄美ならではの体験ができるイベントを開催したことで、園内は多くの家族連れで賑わい、奄美パークをより身近に感じていただく機会となった。







(3)第11回奄美パーク子どもクリスマス会

日時:平成29年12月17日(日)

午前の部 10:05~12:30 午後の部 14:05~16:30

場所:屋内イベント広場

入場者数:午前の部 約1,700名 午後の部 約1,300名

内容: 冬休みやクリスマス間近のこの時期に子どもたちに クリスマスを楽しんでもらうために「奄美パーク子ど もクリスマス会」を開催した。

最初に登場したのは、地元で活動しているダンスユニット「デルドレン」であった。おもちゃのピエロを題材としたダンスミュージカルを披露した。ピエロに扮した3人組が魔法使いの魔法で動きだし、会場の子どもたちにお菓子を配ると子どもたちは大歓声をあげて喜んでいた。

続いて登場したのは、地元で活動しているフラダンスチームの「Hauoli Ai Studio」であった。クリスマスをイメージした赤と緑の衣装を身にまとい、クリスマスソングに合わせたフラダンスを披露した。途中会場に振り付けを教えながら一緒に踊る姿などが見られた。

続いて3番目に登場したのは、奄美看護福祉専門学校こども・かいご福祉学科の生徒であった。手袋人形やペーパーシアターなどを使ったレクリエーションを披露した。ペーパーシアターでは、司会の「何の動物が隠れているかな?」の問いかけに元気に答える子どもたちの姿などが見られた。

ステージ最後に登場したのは、沖縄で大道芸活動を している「大道芸人けんぢ」であった。一輪車に乗る 場面では、会場の中からアシスタントとして 1 人呼び 出し、お手伝いをしてもらった。アシスタントの方と の掛け合いには、会場からどっと笑いがおこり楽しい 時間となった。

最後の大抽選会は、奄美大島内の企業31社から多くの景品を御提供いただいた。司会が抽選番号を読み上げると、会場は一喜一憂した。子どもたちは自分の番号が読み上げられるのを今か今かと楽しみにしており、目を輝かせて抽選券を握っている姿が印象的であった。イベントの最後には、抽選に外れた子どもたちにお菓子を配布した。始終大勢の家族連れで賑わった1日であった。









(4)第2回奄美パークバブルサッカー大会

日時:平成30年2月24日(土)9:00~14:15

場所:多目的広場参加者数:171名

内容: 昨年度に引き続きバブルサッカー大会を多目的広場

で開催した。

大会には、子どもの部8チーム、一般の部15チームの総勢約170人が参加した。

序盤, 参加者はバブルボールの扱いや普段と違う視界に戸惑っている様子もうかがえたが, 時間が経つにつれ徐々に慣れてくると積極的に相手にぶつかりながらボールを追いかけ, 熱戦が繰り広げられた。

また、思うようにボールを蹴ることができなかったり、ぶつかり合って転倒しなかなか起き上がれないなど、いくつもの珍プレーに会場では終始笑い声や歓声が上がっていた。

参加者からは、「普段なかなか体験できないスポーツ。新鮮でとても楽しめた。」「性別や年齢の体力差関係なく楽しめるので、奄美でもっと普及してほしい。」などの感想を得た。





最終成績は以下のとおり

【子どもの部】

優 勝 優勝したら肉まん

準優勝 ニューヒーローズ

3 位 リンザイル, HOLLY CAMP KIDS

【一般の部】

優 勝 KANEKU

準優勝 New Directions

3 位 ノネコZERO. J.S.C



(5) けんむんクイズラリー

期間:通年

場所: 奄美の郷内

内容: 奄美の郷内18箇所にオリジナルクイズを掲示し、 展示物の解説などをヒントにクイズを解いてまわり、 ゲーム感覚で奄美のことを学べる「けんむんクイズラ

リー」を実施した。

室内で実施するクイズラリーは、雨の日や日差しの 強い夏、風の冷たい冬でも快適に楽しむことができる。 また、無料ゾーンにもクイズを配置することにより、



より多くの来園者が参加できるようにした。クイズを解き終わった参加者には、解答用紙と参加賞の奄美パークオリジナルけんむんシールをプレゼントした。また、田中一村記念美術館への誘客につなげるため、美術館の受付で追加のシールが貰える特典も付けた。今年からけんむんシールの種類を増やしたことで、違う種類のけんむんシール欲しさに何度もクイズに挑戦する地元の子供たちの姿も見られた。

また、何度もクイズに挑戦する方が飽きないよう、 クイズの内容も大幅に変更をした。子どもだけでなく 大人も参加する姿が多く見られ、クイズラリーを通し て、奄美への関心を高めるきっかけ作りにつなげるこ とができた。



第4 田中一村記念美術館企画事業

1 奄美関連作家展及び招待作家展

(1)渡辺晃一展~奄美の華跡~

期間:平成29年3月19日(日)~4月2日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数:1,883名

内容: 様々な表現方法で観る者に課題呈示をしてきた渡辺 晃一氏の作品の中から、今回は奄美の花、特に田中一 村が描いた花々を取り上げて表現した作品を展示し た。

日頃見慣れている花々を、違う視点で描かれた作品によって奄美の魅力を再発見する機会として『渡辺晃一展~奄美の華跡~』を開催し、ハマユウやアダン等の花々を拓本や標本などにして多面的に捕らえた作品69点を展示した。

また、3月19日(日)と4月2日(日)には、企画展示室にてフロアトークが行われ、渡辺氏は制作過程や奄美の植物等について解説した。

3月20日(月)には、奄美パーク レクチャールームにてワークショップ「花の絵を描く」が行われた。参加者は、植物を写実的・科学的に描写する「ボタニカルアート」に挑戦した。渡辺氏は、描く花の輪郭を捕らえるのではなく、花の構造を理解して立体を意識して描く等の解説を行った。参加者は渡辺氏からのアドバイスを受けながら真剣な表情で花を観察し、紙に書き写した。

4月1日(土)には、企画展示室にて「谷川渥×渡辺晃一美術対談」が行われた。約30名の参加者を前に、美学者である谷川氏著書の「幻想の花園」と渡辺氏の作品などから花をめぐって対談を行った。

展覧会には島内外から多くの来館者があり、「花と言えば色が特徴だと思っていましたが、その色を極力抑えてもこんなに存在感がでるんだと驚きました。」、「見方、描き方でこんなに違うものになるんだなと思いました。もっと見てみたいです。」、「奄美の自然の中での作品の数々、おさえた色の花々から何とも言えない美しさを感じます。」、「今までに見たことのない花や花の形、角度など綺麗で見とれました。とても良かったです。」等の感想を得、改めて奄美の魅力を再発見する機会となった。







(2) 奄美につむぐ物語~吉田静佳イラスト&ベップリョウ写真展

期間:平成29年4月15日(土)~4月23日(日) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:2,273名

内容: イラストレーターの吉田静佳氏と写真家の別府亮氏の作品の中から,奄美をテーマにした合同作品展として『奄美につむぐ物語~吉田静佳イラスト&ベップリョウ写真展』を開催した。吉田氏は、「とうめいケンムン」という題名の絵本の原画である卵の殻を使用して作られた作品等を計20点展示した。また、別府氏は奄美の風景を様々な方法で撮影した作品を計31点展示した。

また4月16日(日)にはフロアトークが行われ、 吉田氏と別府氏は作品の解説から作成誕生秘話等に ついて語り、鑑賞者の思いを広げ深める時間となり、 さらに奄美の再発見につながる機会となった。

島内外から多くの来館者があり、「観ているだけで温かい気持ちになりました。」「とても貴重な作品を間近に観ることが出来ました。卵の殻を使用した絵だと知り、驚きました。」「別府さんの写真は新聞等で目にしていますが、この様な形で観ると、また見え方も違ってきます。」「吉田さんのイラストは可愛く、一つつのキャラクターがしっかり特徴を捉えていて、より奄美への親近感がわきました。」等の感想を得た。







(3)四本松庭懐古展

期間:平成29年4月30日(日)~5月21日(日)場所:企画展示室 期間中の入館者数:4,147名内容: 奄美の自然,伝統を受け継ぎながら書で伝え続けた

人物,四本健治氏(平成28年4月逝去)を懐古して, ゆかりの方々の書と併せた展覧会,「四本松庭懐古展」 を開催した。四本氏の作品約33点と,四本氏の恩師 や友人の作品7点,四本氏の教え子の芦花部講座生の 作品約23点が展示された。

また、初日の4月30日(日)には、妻の翠さんが フロアトークを行った。フロアトークでは、四本健治 氏の人柄や亡くなる直前まで個展開催へ向け筆を握 っていたことなどを紹介した。

島内外から多くの来館者があり、「作品を見ていると熱心で丁寧な指導を思い出す。」、「すばらしい作品をゆっくり見る事が出来て、元気をもらうことが出来





ました。」,「大島紬に書かれた作品と蘇生のあの大きな力強い文字に元気を頂きました。」,「退職したら時間を作り、書を習ってみたいと思いました。」等の感想を得た。

(4) Before and After: 自分探しの旅・そして奄美へ

期間:平成29年7月16日(日)~7月30日(日) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:1,834名

内容: ニュージーランド生まれ、アメリカで芸術修士号の 学位を取り、現在カリフォルニア州立大学チコ校で芸 術学部基礎コースのコーディネーターを務める J.パ ウエル教授の作品展として『Before and A fter: 自分探しの旅・そして奄美へ』を開催し た。

ニュージーランドからアメリカへと自分探しの旅を続けるJ.パウエル教授が、アメリカで生活する中で生み出した作品群と、かつて田中一村が奄美に来て自分のスタイルを構築したように、J.パウエル教授も奄美という自然と文化に影響を受け、これまでとは違った視点で世界を感じながら表現した作品を含む18点を展示した。

会期中, J. パウエル教授が奄美で描いたポストカードサイズのスケッチ画と, 奄美看護福祉専門学校学生によるスケッチ画もコラボレーションとして企画展示室内に展示を行った。

7月16日(日)は、関連イベントとして、企画展示室にてJ.パウエル教授とNPO法人アマミーナ理事長 徳 雅美氏の通訳によるオープニングトークが行われ、作品解説や奄美の印象についてなどを語った。

来館者からは「奄美で描いたスケッチに感心した。」「作品の説明がより作品をおもしろくしていた。」「その人物の思想なども表現しつつ完成させていてすごい。」「一枚一枚の作品が語るメッセージ性の強さに惹かれた。」等の感想を得た。





(5)ビシキ×びしき×BiShiKi展 in 奄美

期間:平成29年8月6日(日)~27日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数:2,402名

内容: わずか2か月ほどであったが田中一村も入学した東京美術学校,現在の東京芸術大学で学んだ8名の作家

が、一村も魅了した奄美をテーマに作品を制作し、奄美の方や旅行者に向けて作品を発表するグループ展として『ビシキ×びしき×BiShiKi展in奄美』を開催した。展示室には村上弘人氏の作品11点、麻生隆悟氏の作品12点、伊庭壮太郎氏の作品6点、奥村幸弘氏の作品9点、下地貴之氏の作品6点、伊藤泰雅氏の作品2点、大関千里氏の作品9点、鴻崎正武氏の作品3点の計58点を展示した。

8月6日(日)は、関連イベントとして、企画展示室にて作家本人である村上弘人氏・麻生隆悟氏・伊藤泰雅氏・大関千里氏の4名によるオープニングトークが行われ、作品解説や奄美の印象についてなどを語った。

来館者からは「たくさんの才能に出会えて、そして その中に奄美を感じさせてくれる要素がちりばめられていて、とても良かったです。」「今までに見たこと のない世界観の絵ばかりで非常に素晴らしかったで す。」「画風の異なる作家さんたち、それぞれの世界が 確立されていてとても見応えがありました。」「地元の 者が気付かない奄美の良さが表現されていて、見てい て心が和みました。」等の感想を得た。







(6) PHOTO3人展「シマ・島・縞」

期間:平成29年12月23日(土)~平成30年1月14日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数: 2, 199名

内容: 奄美で写真による表現活動に取り組んでいる3人の写真家が、それぞれ抱く現在の"島"についての写真を展示した。里村強志氏は「シマ」、吉行秀和氏は「島」、濱田康作氏は「縞」をテーマにした写真で、それぞれのパートを構成した写真87点を展示した。

来場者からは「奄美の持っている美しさや強さを写真の中にとどめていて、とても心に残りました。」「島の言葉と写真のマッチングが素敵でした。」「とても素敵な写真が多く、自分自身がまだ見たことのない島を感じることが出来ました。」等の感想を得た。

また、12月24日(日)にはフロアトークが行われ、3人の作家がそれぞれに作品解説を行い、作品のモチーフや制作にあたる経緯、想いなどを話した。参加者はさらに作品への関心を深めた。





奄美大島というフィールドの中にある魅力的な自然や文化等を、三者三様の視点・感性で切り取り、再構成された展覧会場全体で、鑑賞する人々が、"島、への新たな発見、気づき、感動を味わえる展示会となった。

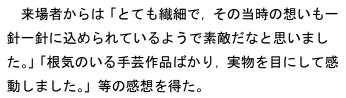


(7)木・布に遊ぶ 手仕事展

期間:平成30年1月28日(日)~平成30年2月18日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数:3,904名 内容: 木や布という素材を使い、手仕事によって生み出された作品を展示する奄美在住の作家3名による展覧会を開催した。

> 森田良平氏は木を使った手仕事として,組子細工を 展示した。組子細工とは,釘や接着剤などを使うこと なく,切り込みやほぞを入れた細い板を,手作業で組 合せて精密な紋様を編み出していく伝統技法である。 窪山照枝氏は布を使った手仕事として,パッチワー ク・キルト・ちりめんお細工,森田ケイ子氏は大島紬 を使った押し絵を展示した。



また、1月28日(日)にはフロアトークが行われ、 作家本人がそれぞれに作品解説を行い、作品のモチー フや制作にあたる経緯、想いなどを話した。参加者は さらに作品への興味や関心を深めた。

木や布という素材を使い、海外から伝わったものや 日本の伝統技法によって生み出された様々な手仕事 作品を展観することで、そのよさや可能性を島内外の 多くの方々に感じていただく展覧会となった。





(8)書 凡夫三人展

期間:平成30年2月25日(日)~平成30年3月11日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数: 2, 200名

内容: 奄美群島という独自の自然環境や文化をもつ地で, 精力的に創作活動に取り組み,島内外で作品発表をし, 文化芸術振興に携わっている作家,池田光麿氏(大島 高等学校勤務),石川正史氏(古仁屋高等学校勤務), 水口昌紀氏(沖永良部高等学校勤務)の3名による書



道作品展を開催した。

来場者からは「線の強さ、美しさに感動を覚えました。漢字・かなの持つ美しさを伝え広めていきたい。」「力強く、また繊細で、思わず景色が浮かぶ作品もありました。型にはまるな、と背中を押されているような気持ちになりました。」等の感想を得た。

また、2月25日(日)には、作品解説フロアトークが行われ、3人の作家がそれぞれに、作品の制作にあたる経緯、思いなどを話した。参加者は、さらに作品への関心を深めた。島内外からの来館者に、奄美群島で活躍する書家による良質な作品を鑑賞する機会を提供するとともに、書道の魅力や可能性を島内外の多くの方々に感じていただく展覧会となった。





2 県美展奄美関連作家展

日時:平成29年6月11日(日)~7月2日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数:2,401名

内容: 第64回県美展において入選,入賞した奄美関連作家の作品を,洋画14点,日本画1点,工芸2点,写真18点,彫刻1点,合計36点を展示し,島内外の美術愛好家に紹介するとともに,奄美群島の芸術発展

に寄与することを目的に開催した。

6月11日のフロアトークでは、出品した作家数名 が作品について解説を行った。

今回の展示では、奄美群島から出品し、県知事賞や 霧島アートの森賞をはじめ、奨励賞を受賞した作品に 加えて、田中一村記念美術館賞の鹿児島市在住の作家 の作品も展示した。

来館者からは「県美展に出展される方々の作品だけあって、普段からの取り組みが伝わってくる作品ばかりでした。写真の構図、人物の表情、動きが良く捉えられていて魅了されます。」「情熱の伝わる作品にふれることが出来て大変嬉しいです。地元の作家の方々の努力も励みになります。」「島の結いの心が見えました。」等、多くの感想を得た。





3 田中一村記念スケッチコンクール作品展

日時:平成29年9月10日(日)~9月25日(月) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:2.309名

内容: 奄美群島内の小・中学生を対象に奄美の自然や生活, 行事などをテーマにスケッチ作品を募集。応募のあっ た614点の作品から,入選,入賞した335点を展 示した。奄美群島内61校の小中学生の応募があった。 学校での学びを活かしながら,奄美の自然やそれぞれ の体験や地域への思いなど,個性豊かに表現した作品 が多かった。

展示期間中の9月23日(土)午後2時からは授賞式を開催し、受賞した児童生徒10名とその家族や関係者の参加があり、受賞者らは嬉しそうに賞状と記念品を受けとった。

来館者からは「子どもたちの豊かな感性を観ることができ、楽しませてもらいました。」「友だちの作品を見に来たので来年は自分も頑張ってみたいです。」「それぞれ違う視点から見ていて丁寧に描かれていたので勉強になった。」などの感想を得た。





4 第16回奄美を描く美術展

(1)本展

日時:平成29年10月22日(日)~11月19日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数:3,429名

内容: 奄美を描く美術展は、全国の美術を愛好する方々が 奄美を訪れ、奄美の風物や文化に接し、作品を発表す る機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の 発展に寄与することを目的に開催している。

第16回目となった今回は、全国から92点(油彩、水彩、アクリル、七宝、工芸など)が寄せられ、審査を経て、入賞12点、入選50点の計62点を展示した。

審査員長甲田洋二氏(画家 元武蔵野美術大学学長)は「油彩や水彩画など、表現方法は異なる作品群ではあるが、自然との対話を造形化していると感じる良作が多かった。少しオーバーに感じられるかもしれないが、審査を通して、人間の未来に対して、安らぎを感じるほど、絵画のあり方を改めて考えさせられる機会となった。これは、作品制作において、軽々しいアイデアとかではなく、圧倒的な自然との対話の濃度、実直で素直な姿勢によって絵画が誕生していることへの驚きである。今、全体として失われている自然との対話が、奄美の地で誕生していることに深い感動を覚えた。小品ではあるが、自然と人間との関係が感じられる、作者の思いの丈を表現した多くの作品が出品されている本展覧会の今後の発展が楽しみである。」と総評した。

来館者からは「絵画の楽しさ、描くことの楽しさを、 奄美をモチーフとして表現している作品を見ること が出来て勉強になりました。」「自然がたくさん描かれ ていて、さすが奄美だと思いました。一村に続く画家 が、また奄美から出て欲しいです。」などの感想や意 見を得た。







(2)巡回展

日時:平成29年12月3日(日)~12月10日(日)

場所:伊仙町中央公民館 期間中の入場者数:160名 内容: 奄美を描く美術展の巡回展は平成22年からスター

トし、毎年各離島を巡回している。8回目となる今回

は伊仙町中央公民館で開催した。本展でも展示をした 入賞12点、入選15点の計27点を展示した。同館 の職員や伊仙町役場職員の方々の展示作業や広報へ の協力により、素晴らしい展示会となった。

来館者からは「色合いや奄美の自然が上手く描かれていると思います。田中一村の絵も観てみたいです。」「奄美の自然や生き物を、奄美出身外の方々が色々な見方で描いている。とらえ方や表現力が面白い。」「絵を見る機会や場所がないので、このような催しはありがたいです。」などの感想や意見を得た。



(3)入選・入賞作品



奄美を描く美術展大賞 「台風のあと」

F15 水彩 高山 法雄(熊本県)

泥染めをしている人物を見事に描ききっており、画面から人物の凜とした生き方が伝わってくる。構図のおもしろみ、高い表現力によって、自然や周りの空気感、風を感じる作品である。

田中一村記念美術館賞 「ダチュラのメロディー」

F15 アクリル 池田 三樹子(奄美市) 主題となる花が過不足なくリズミカルに構成されており、 豊かな色合いから、植物のもつ生命感や輝き、自然との ふれ合いの濃さを感じる作品である。





優秀賞

「パパイヤ」

F15 水彩 山田 望(奄美市)

パパイヤというモチーフをしっかり観察し、細部まで神経を 行き届かせて描いている。枝の重なりなどの構成のおもしろ さや水彩絵の具のよさを存分に発揮した作品である。

優秀賞 「奄美の森」 F15 油彩 渡 洋子(奄美市)

画面中央の樹木や画面手前のハマユウの表現など、素直に表現する姿勢が感じられる。南国奄美の森がもつ生命力が画面全体からひたひたと伝わってくる作品である。





優秀賞

「秋名の杜に想う」

F15 アクリル 岡山 良治(龍郷町)

独創的な画面で、明暗の表現の中に工夫が見られる。作者の 夢や想いなど、イメージとしてとらえたものを伸びやかに展 開してあり、不思議な魅力を発している作品である。



「紬のメロディー ii」

F15 油彩 瀧田 秀子(奄美市)

大島紬の模様とパラソルによって大胆に画面構成がされている 点におもしろさを感じる。また、色や配色にインパクトとハー モニーを感じる作品である。



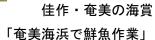


優秀賞

「野いちご」

F15 水彩 屋 幸子(奄美市)

濃密な植物の織りなす世界の一瞬を画面に描くことに成功している。野いちごや花、葉の重なりなど細部までじっくり見つめ、 自然の大きなエネルギーも描けている作品である。



F10 油彩 森 正志 (鹿児島市)

海,山,空の色や表現に工夫がみられる。漁港を思わせる画面からは,漁業にかかわる人々の生活感が伝わってくる実直な作品である。

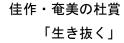




佳作・奄美の空賞 「森に生きる」

F15 油彩 今村 富枝 (奄美市)

モチーフになった植物一つ一つをしっかり観察して描けている。 特に、クワズイモの葉や実などが織りなす世界がよく描けてい る作品である。



F15 油彩 中野 長子(奄美市)

対象物のもつエネルギーを、木の表皮の表現や画面構成を工夫 することで表現しようとする作者の姿勢が伝わってくる。じっ くり描き込まれた樹の表現が魅力的な作品である。





ヤング賞

「回帰」

F15 油彩 赤﨑 祐斗 (伊仙町)

作者の心の中に潜む想いや内面的な衝動, 焦燥感などが伝わってくる作品である。造形化する大変さに挑戦する作者の姿勢が 伝わってくる作品である。

シルバー賞 「珊瑚と愉快な仲間」

S15 日本画 重村 敏光(奄美市)

魚や貝などが楽しげに描かれている。南国の豊かな海の世界を 画面構成の工夫や、描画材を自在に伸びやかに使うことで活写 している作品である。



【審査総評】

油彩や水彩画など、表現方法は異なる作品群ではあるが、自然との対話を造形化していると感じる良作が多かった。少しオーバーに感じられるかもしれないが、審査を通して、人間の未来に対して、安らぎを感じるほど、絵画のあり方を改めて考えさせられる機会となった。これは、作品制作において、軽々しいアイデアとかではなく、圧倒的な自然との対話の濃度、実直で素直な姿勢によって絵画が誕生していることへの驚きである。今、全体として失われている自然との対話が、奄美の地で誕生していることに深い感動を覚えた。

小品ではあるが、自然と人間との関係が感じられる、作者の思いの丈を表現した多くの作品が出品されている本展覧会の今後の発展が楽しみである。

審査員長 甲田 洋二 (画家 元武蔵野美術大学学長)

5 その他企画展

(1) 龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展

日時:平成29年11月26日(日)~12月10日(日) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:1,580名

物が、正画成が主 期間中の八品音数、1,000名

内容: 児童・生徒の創作活動への興味・感心・意欲を高めるとともに、美術館を身近に感じてもらうため、また、保護者や地域住民に学校の学習内容や児童・生徒の様子を理解していただき、指導内容等についての情報交換の場となることも意図して、龍郷町立の小学校7校と中学校3校の児童・生徒が授業で制作した絵画・立体などの作品を展示した。

多くの方が来館し、学校での指導、子どもたちの豊かな発想について語り合う姿がみられた。来館者から「地元の子どもたちの作品を地元の美術館で展示するのは良いなと感じました。」「高学年、中学年と学年が上がるにつれ色の使い方や構図などが細かく反映されていて素晴らしいと感じた。」「上手な子だけでなく全員の作品を展示しているのが良いなと思いました。」「各学校の取り組みや作品の見比べができ、とても良かった。」などの感想を得た。





6 創作体験教室ほか

(1)創作体験教室 楽しい絵画教室「奄美を描こう」

日時:平成29年5月14日(日)10:00~16:00

場所:レクチャールーム 参加者数:19名

内容: 当美術館初代学芸専門員で,現在川辺高等学校非常 勤講師として勤務している西村康博氏を講師に招き, 日本画の創作体験教室を開催した。

> 参加者は墨や日本画用の絵具を使い、季節の植物や 貝殻をテーマにそれぞれの作品制作に挑戦した。講座 では日本画の特徴や制作の手順の説明のあと、参加者 が植物や貝殻などの題材を決め、木炭であたりをとっ た。その後、墨で下描きをし、日本画用の絵具を使っ て作品を作成した。途中、講師が参加者の作品を見て まわり、参加者へ構図や形のとらえ方、彩色について アドバイスを行った。参加者の多くがそれを参考に作 品を完成させた。最後に、完成した作品に西村氏が講 評を行い、互いの作品を鑑賞し合った。講師からは「想



像や写真ではなく、実物をよく見て線や色を描く事が 大事。細かい変化に気付く感性を大切にして。」等の アドバイスがあった。

参加者は「身近な花でもよく観察するといろんな形 や色があって面白い。」「絵画教室は初めて参加するが、 細かく丁寧に描くと思ったよりうまく描けたので驚 いた。」等との感想を得た。参加者全員が熱心に創作 活動に取り組み、今後も時間を見つけて描いてみたい、 次回も是非参加したい等の声も聞かれた。



(2) 夏休み子どもワークショップ 万華鏡をつくろう

日時:平成29年7月22日(土)10:00~12:00

場所:レクチャールーム 参加者数:41名

内容: 奄美の郷レクチャールームにて、当館学芸専門員を 指導者として「夏休み親子ワークショップ 万華鏡を つくろう」を開催した。今回初めての実施となる万華 鏡づくりには、定員の小学生20名とその保護者が参 加した。

> まず始めに、それぞれのテーブルごとに自己紹介を 行ってから作成を始めた。

> 万華鏡の作成には、はさみを使用する工程があるため、参加者には各自はさみを準備してもらい、低学年の子どもたちがはさみを使用する際は、保護者と一緒に工作を行ってもらった。参加者は、指導者の説明を聞きながら楽しく万華鏡づくりを行った。

万華鏡に入れるビーズの種類や量によっても模様が変化するため、何を入れるかを相談しながら楽しそうに作成する場面などが見られた。また、それぞれに完成すると、お隣同士で交換して万華鏡をのぞき込むなど、喜んでいる様子が見られた。

自分で美しい模様を作り出す万華鏡を作成することで、小学生の低学年から高学年まで創作活動を楽しめるワークショップとなった。また、親子や友人同士で協力しながら作成することにより、夏休みの思い出となった。







(3)夏休み親子「織り体験」

日時:平成29年8月26日(土)

午前の部 10:00~12:00 午後の部 13:30~15:30

場所:レクチャールーム 参加者数:25名

内容: 奄美の伝統工芸である大島紬の織りの工程について, 仕組みを理解したり楽しさを味わったりすることを 目的に,奄美市笠利町で「工房しまむたび」を運営す る植田正輝氏を講師に招いて「織り体験」を行った。

参加者は、まず始めに講師が準備した段ボール製の織り機にたて糸を通した。その後、たて糸を張った織り機を使って、糸わたしの方法を学んだ。はじめは慣れない作業で時間のかかる場面も見られたが、参加者は講師の説明を聞きながら次第に上手に織れるようになっていった。また、保護者に協力してもらいながら織りを進めるうちに上達し、色を変えたり織りの模様を変えたりと、工夫を加えるようになっていった。会場からは、コースターや小銭入れに挑戦したいという声も聞かれた。制作時間が終了してからは、それぞれ作った道具一式を持ち帰り、家で続きを作成することとなった。

「難しかったけれど、色んな色の糸を入れられて楽 しかった。」「家に持ち帰って完成させたい。」等の感 想を得た。

織りの仕組みを体験しながら自分なりの工夫をすることができて、奄美に伝わる伝統工芸の奥深さにふれてもらう機会となった。







(4)田中一村作品鑑賞会

日時:平成29年9月3日(日)10:00~12:00

場所:レクチャールーム・ 田中一村記念美術館

参加者数:15名

内容: 奄美の郷レクチャールームにて, 当館学芸専門員を 講師として「田中一村作品鑑賞会」を開催した。

> 奄美に魅せられ、奄美の自然を描き、日本画の新境 地を拓いた田中一村について、その生き方や作品の基 本的なこと(題材や構図、技法などの特徴等)への理 解を深め、より深く田中一村の作品を味わい、参加者 が田中一村の魅力を周りの方に紹介できるようにな ることを目指し実施した。



参加者は、レクチャールームにてスライドを見ながら熱心にメモをとるなどして、田中一村についての知識を深めた。その後、田中一村記念美術館に場所を移し当館学芸専門員による解説を交えた鑑賞会を行った。参加者は、絵を丹念に観て質問をしながら、一村の作品や生き方について理解を深めた。鑑賞会終了後には、一村の絵について深く味わうことができたと満足げな表情を見せていた。また、参加者同士で話し合う姿や再び展示室に向かう姿が見られた。



(5)子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会

日時:平成29年11月3日(金)10:00~11:20

場所:田中一村記念美術館 参加者数:11名

内容: 文化の日に合わせて、小・中学生とその保護者を対象とした「子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会」を開催した。本プログラムは、「美術館の役割について」「美術館の施設見学」「田中一村さん作品鑑賞」の3部構成で開催した。

第1部では、学芸専門員より、一般的な美術館の役割についてと田中一村記念美術館の役割についての説明を行った。

第2部の施設見学では、学芸員室、荷解庫、収蔵庫前、機械室、電気室など、普段は見学することのできないエリアを見学して回り、美術館を運営するために必要な様々な施設の説明を行った。

第3部の田中一村さん作品鑑賞では、作品を鑑賞する前に子ども向けの田中一村に関する基本的な説明を行った。その後、東京、千葉、奄美大島の展示室内で、参加者それぞれの見方、感じ方を基にして、作品について語っていただいた。はじめは、思うように言葉にできなかったが、次第にどの参加者も自分なりの作品に対する意見をしっかり言えるようになっていった。参加者の感想では、「とても作品が厳重に管理されていることに驚いた。」「空調の管理システムに驚いた。」「いつもより細かく見ると、いろいろな動物や人も細かく描かれていてすごいと思った。」などの感想が聞かれた。







(6)創作体験教室 人物画講座

日時: 平成30年3月17日(土), 18日(日)

いずれも10:00~16:00

場所:企画展示室 参加者数:18日 14名,19日 14名

内容: 西健吉先生(二科会理事)を講師に、毎年開催している創作体験教室「人物画講座」を開催した。モデルは今回が初めてとなる與倉鈴華さんに2日間依頼した。

1日目は、5分のクロッキーで4ポーズ、その後固定ポーズを描き、2日目も、5分のクロッキーで4ポーズ、その後1日目とは異なる固定ポーズを描き、1日に1作品描き上げるという形式で行った。

参加者はモデルの特徴を捉え、油彩や水彩、鉛筆等で人物画の制作に取り組んだ。特に2日目には、積極的に西先生からの絵に対する助言や説明を受け、それぞれに個性ある作品を制作した。

最後に、制作した作品一つ一つについて西先生が講 評を行い、互いの作品を鑑賞した。

参加者から「西先生の指導や講評が制作を進めるうえで大きなヒントになった。」「尊敬する西先生から直接学べる機会はめったにない。2日間しっかり勉強したい。」「長年絵を描くことから遠ざかっていたが初めて参加して良かった。来年も是非参加したい。」等の感想を得た。







第5 各種イベント・美術館企画展ポスター等

1 季節感(年中行事)を取り入れたイベント



















2 奄美の郷ライブステージ













3 文化講演会



4 わきゃステージ in パーク事業



















5 その他自主事業及び共催事業







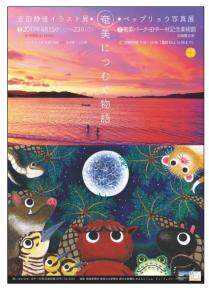






6 美術館





































第6 奄美パーク応援隊について

(1) 結成目的

奄美パークの活動を支援し、魅力ある施設実現の一助とし、ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

(2) 隊員数

51名(平成30年3月12日現在)

(3)年間活動回数

2020

(4)活動内容

奄美パーク応援隊は、施設内のガイドを目的に平成 15年度に発足した。

平成18年度には、展示案内ガイド・手熟ガイド・ 園芸サポーター・一村サポーターと、4つの分科会を 設けたが、それぞれの活動頻度が異なり分科会によっ ては、活動実績がない状況にあったため、再度、活動 のあり方を見直した結果、平成26年度より分科会を 廃止し、展示案内・手熟(三味線やしまうた等)の披 露・園芸活動・美術館活動・その他活動(奄美パーク が企画したイベント、業務等への参加、園内の清掃) と、5つの活動内容で構成し、隊員はそれぞれ得意な 分野や興味のある分野を中心に参加することとなっ た。

隊員には登録証を発行し、ボランティア活動保険への加入と、原則、年に2回以上の活動を義務付けている。登録証は応援隊の活動時以外でも、提示することで奄美パークの有料ゾーンに入ることのできるフリーパスにもなっている。

なお、事務局は月に一度、活動の予定や奄美パーク の行事予定、活動報告などを掲載した「応援隊通信」 を発行し、すべての隊員へ配付している。







(5)活動実績

今年度は、新規隊員が6名、昨年度から引き続き更新のあった隊員が45名、計51名の加入申し込みがあった。それぞれ園芸作業や六調三線など得意な分野や興味のあることに参加した。

手熟の披露は、隊員がそれぞれの都合で来園し、あしびの庭の茅葺民家周辺でシマ唄や三味線の弾き方、 チヂンの叩き方などを来園者へ披露した。「勉強になった。」、「面白かった。」など好評を得ていた。

園芸作業は、月に1回の作業日を設け、2階テラスの花壇を中心に手入れを行った。すべての花壇を万遍なく手入れした。花壇に植えた花苗は、季節に合ったものを購入したり、隊員から頂いたりしたものであった。色とりどりの花々が咲き乱れた花壇では、来園者がカメラを片手に散策する様子がみられた。

そのほか、平成23年度3月から有志による月2回の六調三線の練習も続いており、その成果を披露する機会となる団体客の見送りは高い評価を得ていた。団体客が隊員と一緒に踊ったり、カメラを構えたりする様子なども見られた。

その他活動は、清掃活動を行った。秋と冬の年2回 実施し、主に一村の杜を中心に行った。歩道に落ちて いた落ち葉などを掃除し、日差しが穏やかになり散策 するお客様が快適に過ごせるよう努めた。







鹿児島県奄美パーク事業報告書リーフ

第 16 号

2018年4月発行

編集·発行 奄美群島広域事務組合

鹿児島県 ^{■奄美の郷}



〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834 Tel:0997-55-2333 Fax:0997-55-2612 HP http://www.amamipark.com/ BLOG http://ap129.amamin.jp/